

平成 29 年 4 月 18 日に全国の小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に行われた標記調査の本市の結果をお知らせいたします。

学力は、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたものを言います。このため、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であると言えます。

しかしながら、本調査で測定できる学力は重要な要素であるため、学校、家庭が学力及びその向上について共通の基盤のもとに取り組む必要があります。保護者の皆様におかれましては、学校と連携し、共に三木の未来を担う子どもたちを育てていただきますようお願いいたします。

学力に関する状況（全体の概要）

正答率は、全国と比較して、小学校、中学校ともに±5%の範囲内にあり、全国と大きな差は見られないと言えますが、より細かくみると、小学校は、やや下回っており、中学校は、やや上回っています。

全国の結果と同様に、「知識」に関する問題（A問題）に比べ、「活用」に関する問題（B問題）の平均正答率が低くなっています。

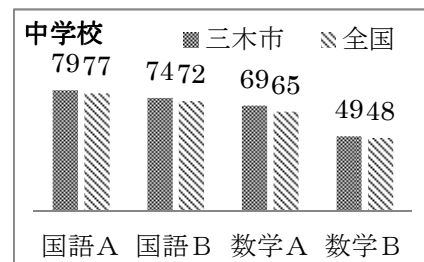
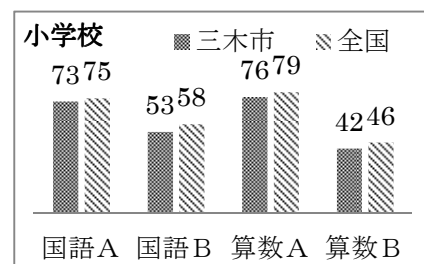
調査結果（全国比較）を、平成 29 年度と平成 28 年度で比べると、対象となる児童生徒は違うものの、小学校においては、国語 A 問題で改善傾向が見られましたが、それ以外は平成 28 年度を下回っています。一方、中学校においては、国語、数学ともに改善傾向が見られました。

本年度の中学 3 年生の調査結果（全国比較）とその生徒が小学 6 年生時の調査結果（全国比較）を比べると、国語、数学（小学校 6 年生時は算数）ともに改善しています。

【平均正答率の状況】

	教 科		平成 29 年度			平成 28 年度	現 中 学 3 年 生 が 小 学 6 年 生 の 時 (H26 年 度) の 全 国 と の 比 較 ※小学 6 年生時は算数
			本市	全国	全国との比較	全国との比較	
小学校	国語	A 知識	73	75	- 2	- 3	
		B 活用	53	58	- 5	- 3	
	算数	A 知識	76	79	- 3	- 2	
		B 活用	42	46	- 4	- 2	
中学校	国語	A 知識	79	77	+ 2	- 1	- 2
		B 活用	74	72	+ 2	- 3	- 4
	数学	A 知識	69	65	+ 4	+ 3	- 1 ※
		B 活用	49	48	+ 1	- 1	- 1 ※

H29：全国との正答率比較グラフ



学力に関する状況（小学校の各調査の概要）

小学校国語

「漢字の読み」や「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること」は、定着傾向にあります。

「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと」や「自分の考えを広げたり、深めたりするための発言の意図を捉えること」に課題があります。

小学校算数

「乗法で表すことのできる二つの数量の関係を理解すること」や「小数の乗法の計算するときの、乗法の性質を理解すること」は、定着傾向にあります。

「割合を比較するためのグラフを選ぶこと」や「基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述すること」に課題があります。

家庭での学習の進め方ポイント（小学校）

1 基本的な学習習慣、生活習慣の確立

学校の宿題などの反復学習が、漢字を読むことや四則計算などの定着につながる一つの要因であると考えられます。家庭において、生活リズムを整え、決まった場所と時間で、宿題等の学習に集中できる環境を整えることが大切です。

2 子どもと目と目を合わせて対話

子どものがんばりを認め、ほめてのばすことは、子どもの自尊感情を育て、学習意欲の向上につながります。子どもと目と目を合わせ対話することで、子どもができていないことは何なのか、苦手なことは何なのかを知ることができます。そうすれば、さらにほめたり、子どもの話を聞きやすくなったりします。

学力に関する状況（中学校の各調査の概要）

中学校国語

「漢字の読み」や「助詞の働きについての理解」、「目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめること」は、定着傾向にあります。

「事象や行為などを表す多様な語句についての理解」や「表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと」に課題があります。

中学校数学

「円錐が回転体としてどのように構成されているかの理解」や「与えられた比例の式について、 x の値に対応する y の値を求めること」は、定着傾向にあります。

「関数や範囲の意味の理解」や「数学的な表現を用いて説明すること」、「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明すること」に課題があります。

家庭での学習の進め方ポイント（中学校）

1 時間の有効活用・学習習慣の確立

中学校の家庭学習では、自主学習等、自分で課題を見つけ、追求する力をつけることが大切です。また、限られた時間の中で、自主的に計画を立て、効率的に学習を進めるためにも、時間の使い方が大切です。スマホ等の使用時間の制限や集中して学習する時間の確保等、できるところから始めることが学力の向上につながります。

2 「目をかける」ことの大切さ

思春期を迎え、心と体のバランスが不安定になる場合があります。そのような時に、学習に対して手助けされても素直になれず、子どもは心の不安を保護者に伝えることができないことがあります。努力したことはほめる、いつでも見ているという「目をかける」ことが子どもの自尊感情を育て、学習意欲の向上を促します。

家庭での学習習慣や生活習慣と学力の相関関係

- 自分で計画を立てて勉強する子どもほど、正答率が高い傾向があります。また、朝食をしっかりと食べる、長時間テレビゲーム等をしないなど、生活習慣が身についている児童生徒ほど平均正答率が高い傾向にあります。
- 特に小学校において、テレビを見る時間やゲームをする時間等のルールを家の人と決めている子どもほど、正答率が高い傾向にあります。

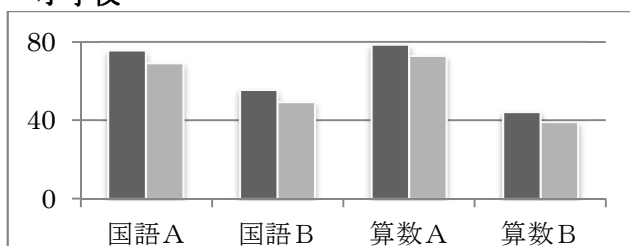
【学習習慣や生活習慣と平均正答率のグラフ（三木市）】 ※縦軸は、平均正答率

Q：家で、自分で計画を立てて勉強していますか？

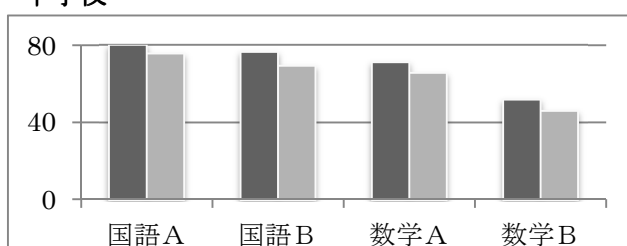
■している・どちらかといえばしている

■あまりしていない・まったくしていない

小学校



中学校

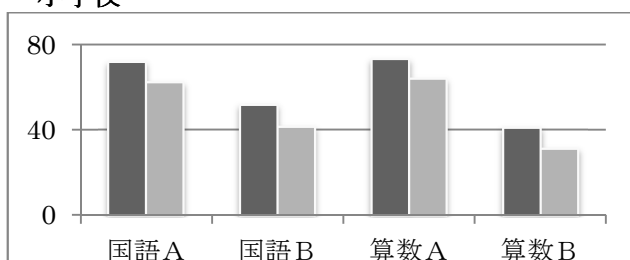


Q：朝食を毎日食べていますか？

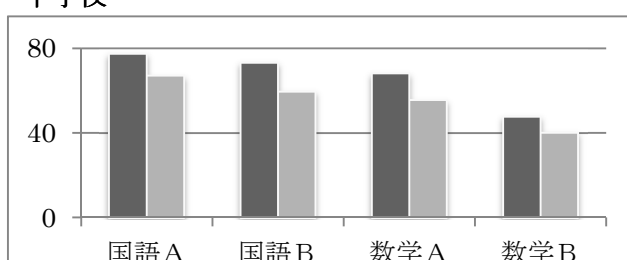
■食べている・どちらかといえば食べている

■あまり食べていない・まったく食べていない

小学校



中学校

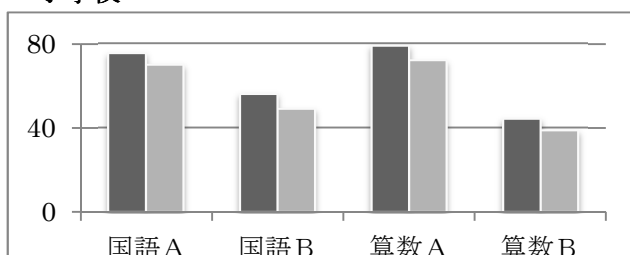


Q：テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか？

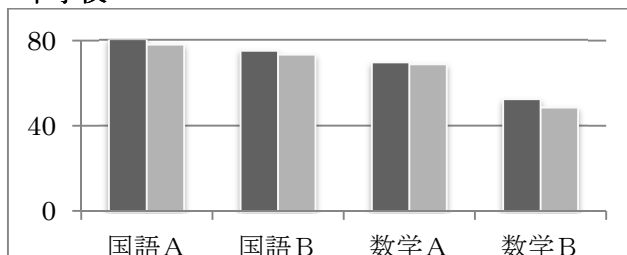
■している・どちらかといえばしている

■あまりしていない・まったくしていない

小学校



中学校



望ましい学習習慣と生活習慣を

学習習慣及び生活習慣は学力と密接な関係にあります。毎日の規則正しい食事、家庭での学習時間、スマートフォン等によるインターネットやゲームの時間管理などについて、子どもと話し合う時間を持っていただきたいと思います。その際は、各家庭に配布している「みきっ子家庭学習ガイド」を参考にしてください。

学習習慣や学習環境等に関する状況

- 学習習慣については、全国と比較して、授業の復習や平日の学習等が定着していない傾向が見られます。また、中学校では、読書好きな子どもが全国と比較して多くなっています。
- 「学校のきまりを守る」「困っている人を進んで助ける」等の規範意識等については、全国と比較して、小学校、中学校ともに肯定的な回答が多くなっています。
- 生活習慣については、全国と比較して、地域行事によく参加しています。テレビゲームをする時間は、中学校では、全国との差もなくなり、改善傾向にあります。小学校では、依然、全国平均より多くなっています。

三木市教育委員会（学校）の今後の取組

平成 27 年度からお配りしている「みきっ子家庭学習ガイド」をもとに、生活習慣や家庭学習の見直しを啓発する取組を市内各校において推進したことで、中学校においてはテレビゲームをする時間が昨年度より減少するなど、成果が表れています。

しかし、小学校において、テレビゲームをする時間が、全国平均よりも多い傾向があり、今後、子どもたちが時間を有効に使えるよう、学校と家庭の連携をさらに強化することが必要です。

今後も、市教委と学校は、家庭と連携しながら、本市の課題である「学習習慣及び生活習慣の定着」「指導方法の工夫改善」「補充学習の充実」の取組を進めます。保護者の皆様におかれましては、「みきっ子家庭学習ガイド」をもとに、引き続き学習習慣及び生活習慣の定着等にご協力をお願いいたします。

課 題	具体的方策
学習習慣及び生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭向けリーフレット「みきっ子家庭学習ガイド」の活用を今後も継続し、家庭学習の時間の確保など家庭と連携した取組を進めます。 ・毎日短時間でも、継続して取り組むことのできる基礎基本的な学習課題を市で作成するなど、自分で計画を立てて学習する習慣の定着を支援します。
指導方法の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を示す活動や振り返り活動を効果的に取り入れる授業研究など、学力向上に係る実践を継続して行い、指導方法の改善を行います。 ・本年度の全国学力・学習状況調査の結果をもとに、課題のある学習内容を重点的に指導できる資料を改訂します。 ・授業の指導方法についてのデータベースを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導、授業改善を行います。
補充学習の充実【小・中学校】	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後に、地域指導者や大学生等を講師として、児童生徒個々の進度に応じた学習を行う等補充学習の充実を図ります。 (現在 10 校において「ひょうごがんばりタイム」を実施→順次拡充)